

特集

地域を守る 消防団



火災を防ぐ設備や知識がどれほど発達しても、私たちの暮らしから火災の脅威が消えることはありません。火は便利であると同時に、「恐れるべきもの」でもあります。特に常陸大宮市は、自然豊かであるがゆえに、近年、ニュースで目にする大規模な山林火災などが発生する可能性もあります。

実際に、近隣市町村で大規模な山林火災が発生した際、本市から応援に駆けつけるほどの緊急事態となるケースも少なくありません。こうした有事の際、命と地域を守るために立ち上がり、消防署員と同じく現場へ急行する人々がいます。普段は私たちと同じ街で暮らす一般市民でありながら、火災通報があれば一変、現場の最前線へと向かう「消防団」です。

消防団は非常勤の公務員

消防団員の正式な扱いは「非常勤特別職の地方公務員」となり、活動に応じた報酬や、在籍年数に応じた退職金が支払われます。単なるボランティアとは違い、定期的な訓練を行い、その知識や技術で自らの地域を自らが守る「責任ある地域のヒーロー」なのです。

3月1日現在、常陸大宮市消防団には724人の正規団員が所属しています。その多くが仕事を持ちながら活動していますが、平日の日中などは仕事で市外にいる団員も少なくありません。それをカバーする存在が、市内に61人いる「機能別団員」です。消防署や消防団のOBで構成され、豊富な経験と知識を生かして、日中の火災発生時などに迅速に対応します。また、14人の女性が所属する「女性分団」もあり、広報活動や応急手当の普及など、きめ細やかな活動で地域を支えています。

火災の後、現場を見届けるのは消防団

常陸大宮市消防団は、エリアごとに19の分団が存在し、管轄エリアの火災通報があると、各分団が管理する消防車に乗って現場に向かいます。現場では、近くの防火水槽や消火栓からホースをつなぎ、消防署員と同じく消火にあたるほか、周囲の安全確保や交通整理などで消火のサポートを行います。そして、鎮火したあと、消防団員が現場に残り、再び炎が上がらないか警戒し、安全が確認できたのちに活動を終えます。

長年の活動から全国表彰も

令和6年3月には、消防団として最も名誉のある「日本消防協会定例表彰特別表彰」を受賞しました。市消防団は、令和4年10月に消防の技術を競う「全国消防操法大会」に茨城県代表として出場した功績や、県内有数の団員数を誇る消防団として活動を継続できていることなどにより受賞に至りました。

全国表彰を受けるほどに誇り高い地域のヒーローによって、私たちの安全は守られています。



▲特別表彰の証として送られた「まとい」と表彰状。「まとい」は高さ2.1mあり、純金箔・純銀箔仕上げの特別仕様です。

多岐にわたる 消防団の活動

消防団の活動は、火災時だけに限りません。地域の防災の要として、水害などでも活動するほか、有事に備えて、訓練や設備点検などを行っています。また、市民が自分で自分を守るように啓発活動にも励んでいます。



▲放水の動作の正確性や素早さを競う「操法大会」。ポンプ車や小型ポンプなどは、操作によって放水する勢いも変わり、消火に適した水圧で放水するために、定期的な訓練が欠かせません。その成果を披露する場になっています。



▲▼久慈川が流れる5市村合同で行う「水防訓練」(上)や、ボートでの行方不明者捜索を想定した訓練(下)で、川の脅威にも備えています。一級河川の久慈川・那珂川が流れる常陸大宮市ならではの活動です。



▶「山火事中継訓練」では、防火水槽から遠い山林火災を想定し、十分な圧力で放水できるように、ホースとポンプの中継方法やポンプの圧力調整を訓練しています。

活動は他にも……

●防火水槽の定期確認、周辺の草刈り

消火で使う水は、防火水槽からくみ上げます。緊急時に「水が無い」という事態を防ぐために、市内に約1,700か所ある防火水槽を各分団で確認しています。夏場には防火水槽周辺の草を刈り、火災発生に備えています。

●花火打ち上げでの散水、警備

お祭りなどでは、花火の打ち上げ場所の地面に散水し、花火の火の粉による火災を防いだり、火の粉が落ちる可能性のある場所に人が立ち入らないよう警備をしています。

●団体での献血

茨城県で輸血用血液の不足が続いていることから、令和7年から県内初となる消防団による献血の協力を始めました。



女性団員は、全員が救命講習指導員の資格を持ち、救命講習の講師として指導を行っています。



第11分団所属
大森 俊介 さん

社会人になるタイミングで、市外から常陸大宮市に戻り、地元の先輩からの誘いを受けて消防団に入団したという大森さん。当初は「火を消す現場は大変そうだ」という漠然としたイメージを持っていましたが、訓練を重ね、実際に火災現場での活

動を経験するうちに「自分たちの街は自分たちで守る」という気持ちが芽生えたと話します。月に2回、ポンプ車の操作訓練などを通して、分団にいる誰もが、いかなる時でも機械を扱えるよう、先輩から後輩へと技術が継承されています。

令和4年10月には、「全国消防操法大会」に茨城県代表として出場しました。大会出場にあたり、ホースの接続や水圧調整などの練習を重ねました。「出場してみて、操法大会は消火活動の基本が詰まっていると思いました。現場に生きるスキルアップができたと感じています」と話します。

現場での活動では、人命救助を第一に考えつつ、専門部隊である消防署員が到着するまでの「つなぎ」としての役割を意識しているという大

森さん。「気持ちが熟くなり、危険に飛び込まないよう、一歩引いて周囲の安全管理を徹底することを心がけています」と話します。

最後に市民へのメッセージとして大森さんは、「地域の防災力を高めるには、一人ひとりの意識と協力が必要です。火の取扱に注意し、地域の防災訓練に参加して、日頃からの備えをお願いしたいです」と話してくれました。



▲大森さんは特別表彰のきっかけである全国消防操法大会に出場しました。

Voices of 消防団

—地域を支える人々—



女性分団所属
野上 恵里 さん

20歳のときに入団した野上さん。当時、市外に住んでいましたが、「大好きな常陸大宮市に関われることがしたい」という思いから、入団を決意しました。

普段は看護師として働く野上さんは、仕事のスキルや経験を生かして

活動に励んでいます。救命講習では、専門的な知識を一般の方にも分かりやすく、ハードルを下げて伝えることを意識しているという野上さん。「緊急時、完璧ではなくても、まずは応急処置を行うことが大切です。講習を受けて『いざという時に自分の大切な人を助けられる』という感覚を多くの人に持ってほしいです」と話します。

火災予防の広報も女性分団の重要な活動です。毎年、春・秋・年末の火災予防パレードなどで注意を呼びかける中で、防災意識も変わったといいます。「活動を始めてから、自宅でもコンセントのほこりや乾燥機の上に洗濯物を干すことなど、火災の原因になるものが目につくようになりました。生活の中でも細心の注意を払っています」と話します。

最後に誰でもできる防災の心がけとして「自然を甘く見ない」ことを挙げた野上さん。「春もまだまだ乾燥しており、野焼きなどが火災につながります。火災以外にも、川の増水を見に行く行為も、自分が巻き込まれたとき、救助してくれる人たちに迷惑をかける行為でもあります。自然を甘く見ないよう意識してほしいです」と話してくれました。



▲出初式では制服姿で参加した女性分団。「パレード形式で、子どもたちに喜んでもらえて嬉しかったです」と野上さん。

あなたの力を消防団に 消防団員を募集しています

消防団で活躍しながら、自分と地域の防災力を高めませんか？

【入団資格】

- 18歳以上の者(男女問わず)
 - 心身ともに健康な方
 - 消防分団の区域内に居住または勤務する方
- ※ただし、消防団長が認める場合は、この限りではない



▲茨城県消防安全課公式YouTube「消防団の活動紹介」の動画に常陸大宮市消防団が出演しています。ぜひご覧ください。



団員・家族が対象！割引などで応援！ 消防団応援の店

「消防団応援の店」とは、店頭で「団員カード」「家族カード」を見せると割引やサービスが受けられる市内のお店です。現在、38事業所が登録しています。



「消防団応援の店」加盟店も募集中です。常陸大宮市を守る消防団を、割引やサービスといった形で応援しませんか？

詳しくは消防本部総務課へお問い合わせください。

地域貢献する従業員を応援 消防団協力事業所

従業員の消防団の活動に協力いただける事業所を募集しています。現在、市内28の事業所が登録しており、従業員が消防団での呼び出しを受けた時に業務とみならず、災害時に事業所の建物・機材などを、被災者のために使うなどの協力をいただいています。消防団協力事業所として認定された事業所には「消防団協力事業所表示証」を交付し、市ホームページ等で事業所名を公表します。



消防本部からのお願い

一人一人の心がけが火災予防につながる

野外で火を扱うときは「届出」と「確実な消火」をお願いします

令和7年の出火件数は26件で、令和6年から4件増加しています。さらに、常陸大宮市の火災では「その他火災」の割合が多いことが特徴で、その原因は、野焼きやたき火などの野外での火の使用によるものが多くを占めます。

野外で火を使う場合には、たき火などの小規模でも、必ず消防本部へ届出を行ってください。また、必ず、消火用の水などを準備してから火の使用を開始し、使用後は小さな火種も確実に消えるように処理をお願いします。

	令和7年	令和6年
出火件数	26件	22件
その他火災	13件	15件